

落合モータース(株)

群馬県館林市新宿1-2-16

TEL.0276-74-0887 FAX.0276-74-0906

<http://www.ochiaimotors.jp/>

対談
代表取締役
落合

インタビューアー

落合 洋一 × 藤波 辰爾

【ドラディション・プロレスリング】



INTERVIEW

YOICHI OCHIAI x TATSUMI FUJINAMI

落合 自転車修理をしていた私の祖父が自動車産業の可能性を予見して昭和二十七年に創業しました。その後、父が引き継ぎ高度経済成長期に会社の規模を拡大、私が生まれた時には家の内も外もクルマ、クルマという状態でした。ただ、それに反発する気持ちがあったのか、私自身はクルマをあまり好きになれず、進路もスポーツが得意だったことから体育系の大学を志望していました。でも、父の顔を見た時なぜか心もとなくなり、やはり家業に就こうと工業系の短期大学へ進むことに。そして学校を卒業して地元へ戻り、ディーラーとして群馬トヨタに入社、整備のノウハウを体得し、ダイハツでの勤務を経て父のもとに帰りました。その後、販売や整備、钣金などクルマに関するあらゆる技術の習得や修業を重ねました。一時は反発したものの結局は私もクルマが好きだったのでしょう。仲間と共に世

藤波 国産車から輸入車、大型から軽自動車までを扱うクルマのプロショップとして、新車・中古車販売、車検点検一般整備、钣金塗装、保険・輸出と幅広く手掛けておられる群馬県館林市の落合モータース(株)さん。まずはこれまでの歩みからお聞かせ下さい。



界、過酷なモータースポーツレースと呼ばれる「キャメルトロフィー」でファイナリストになったこともあります。頑固な職人だった父は三年前に亡くなりましたが、現在はその思いを引き継ぎ三代目として頑張っています。

藤波 私もプロレス界に入る前に鋳金工場に勤めていました。鋳金の技術は格段に進歩したようですが、今も私が訓練を受けた時期と同じで、叩いてボディーを綺麗にする手法が基本だそうですね。

うなるとお客様は整備のために会社を休んだり、休日を含めてなければなりません。当社スタイルは逆で、お客様がクルマで通勤した後、職場に引き取りに行き、帰宅されるまでの間にキッチンと整備し、終業までに納車します。「休日はクルマに乗って色々と楽しんでも下さい」というのがスタンスです。だから敢えて日曜祝日は営業していません。小さいお子さんは学校が休みの時くらいしかお父さんと遊ばせんからね。

いようなクルマでも、アフリカなどではまだ需要が期待できます。当社ではそんなクルマを輸出販売するルートも構築しています。

藤波 それは心強いです。では、これから販売網を全国や海外にまで広げるお考えは。

落合 カーマニアの方が色々な伝手を辿って修理を頼みに来られることもあり、やり甲斐を感じています。ただ、私は当社が手掛けるクルマはすべて自分の目でキチンと確認したいので、事業の拡大に魅力は感じません。

00 THE INTER

藤波 なるほど。ところで、クルマに関してどんな相談にも乗っておられると思います。実はプロレスの興行で利用する大型運搬車を私の会社で所有しているのですが、車検切れが近いもののまだ充分に動くので廃車にするか迷っています。そんなクルマの見積もりなどもお願いできるのですか。

落合 はい。低年式の車検切れで走行距離が十五万kmもあり国内では買い手がつかない

藤波 最後に将来へ向けての意気込みを。

落合 電気自動車やコンピューター分野に
対しては現在にも増して積極的に取り組ん
でいくのはもちろん、お客様が愛車にいつ
までも安心してお乗り頂けるようなお手伝
いをしていきたい、そして今後もお客様に
とって必要とされるクルマのサービスを提
供していこうと思っています。

藤波 更なるご発展を応援しています。

藤波 お客様にとって、柔軟に希望を聞いてもらえるのはありがたいですね。

す!



指すのは「行列のできるラーメン屋」です。お客様に満足して頂き、「地域で一番の店だ」と言ってもらえるようになりますね。お客様の好みはバラエティーに富んでいますから、「カッブラーメンでいい」という方もいれば「高級食材をふんだんに入れてほしい」とおっしゃる方もいるわけです。私達は当社に求められるお客様に出汁の利いた具材のしっかりした、何度でも食べたくなるラーメンを安価で提供することを使命として取り組んでいます。また、この地域では引き取りや納車をしないスタイルのお店がありますが、そ

① INFORMATION

車に関することならお気軽にお問い合わせを。幅広くサポートしています！

